

正保四年・明暦三年の庚申塔 福井県永平寺町松岡湯谷

滝本 やすし

福井県永平寺町松岡湯谷に、正保四年（一六四七）銘と明暦三年（一六五七）銘の庚申塔が建てられている。『松岡町の石造物』（昭和四十七年 増永常雄著、松岡町文化財保護委員会編、松岡町教育委員会発行）に付記として報告されているものである。いずれも青面金剛が彫られた庚申塔としては全国的にみても最古級の作例である。

神明神社の正保四年銘庚申石祠

湯谷集落の東に神明神社があり、拝殿の西側に笏谷石製の石祠が建てられている。幾度も倒壊破損したようで、近年新しい用材で修復され、覆い屋が建てられ保護されている。石祠の前面扉に日月の窓が開けられており、奥壁内面に三面四臂の青面金剛が浮彫りされている。脚下に三邪鬼を踏みつけ、その左右に合掌する二猿を従える。持物は上辺右手が剣、上辺左手が輪宝で、下辺の二手は不鮮明であるが、右手が宝棒で左手が索のようである。扉上部に「ウーン」の種子が刻まれており、その下には次の銘文が刻まれている。

正保四年^{丁亥}三月吉日

為現世安穩

奉供養庚申三十三年尊像彫刻安置作

後生善取之

土肥勘右衛門

前山庚申堂の明暦三年銘庚申塔

湯谷集落の南東約二百メートルの山中に「猿田彦大明神／庚申堂」と記された木造の小堂が建てられており、笏谷石製の角柱型石塔が納められている。前面に一面二臂の青面金剛を浮彫りしている。脚下に邪鬼を踏みつけ、二猿を従える。右手の持物は剣のようであるが、左手の持物は不明である。左右の側面に次の銘文が刻まれている。

右側面

■通十■間甲申之地也

三十三年^ニ當^テ御礼^ヲ納入

左側面

捧酒事山木^ヲ以酒料

替事

干時明暦三^丁酉土肥氏

土肥家の庚申塔

平成六年秋、神明神社庚申石祠および前山庚申堂を所有されている土肥家に庚申塔が建てられた。花崗岩製の小堂に、自然石の石棒が納められている。石堂の脇に建てられている石標に「猿田彦大明神／庚申堂」と刻まれている。この石棒は、前山庚申堂再建の際に堂の下から発見されたものである。

土肥家で使用されていた庚申講掛軸は三幅で、中央が一面四臂青面金剛、左が一面六臂青面金剛、右が竹生島宝巖寺一面八臂弁財天である。これらの掛軸は比較的新しいものである。近年土肥氏は湯谷を離れられ、現在は福井市内に在住されている。



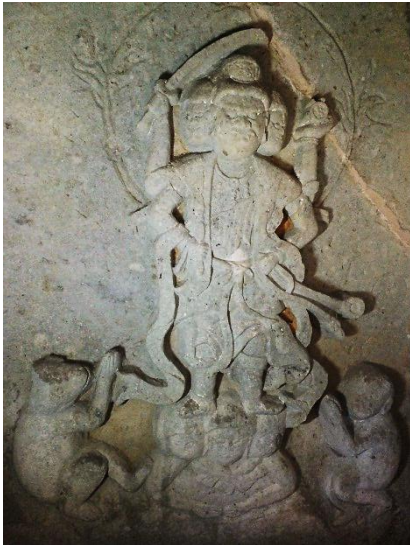
神明神社庚申石祠
令和4年12月撮影



神明神社庚申石祠
平成26年11月撮影



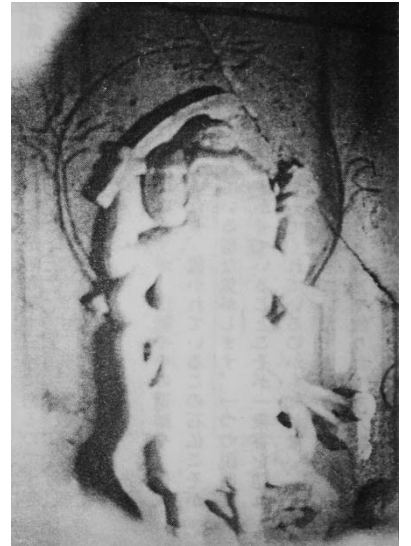
神明神社庚申石祠
平成5年夏撮影



庚申石祠奥壁内面の青面金剛
令和4年12月撮影

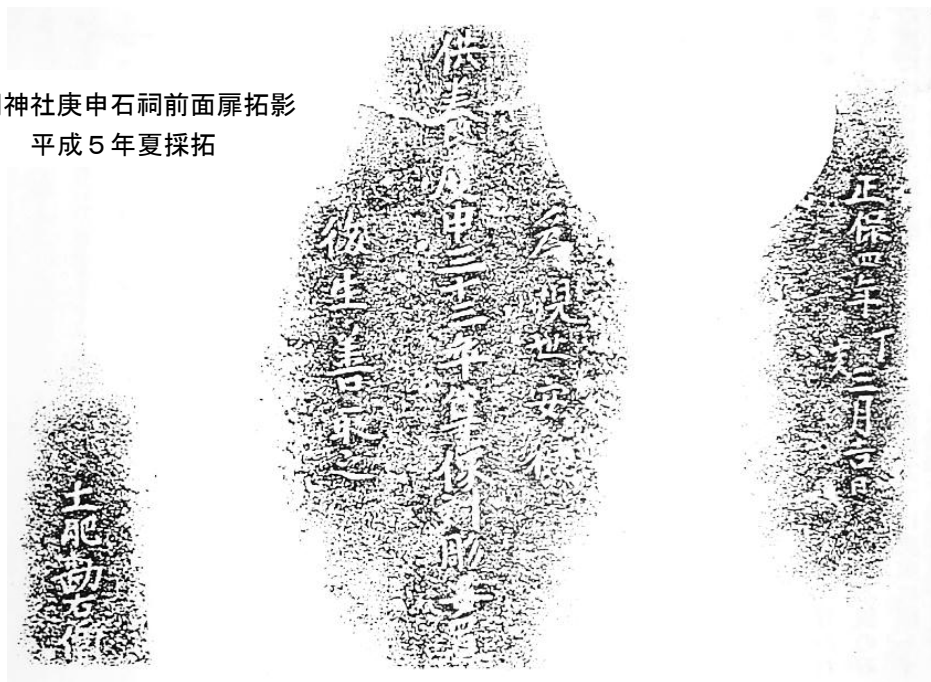


庚申石祠奥壁内面の青面金剛
平成26年11月年撮影



庚申石祠奥壁内面の青面金剛
平成5年夏撮影

神明神社庚申石祠前面扉拓影
平成5年夏採拓

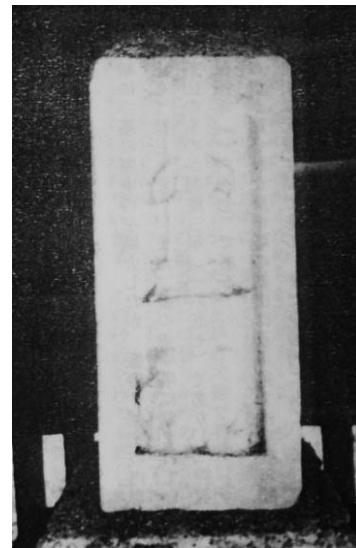




前山庚申塔左側面拓影
平成5年夏採拓



前山庚申塔
令和4年12月撮影



前山庚申塔
平成5年夏撮影



前山庚申堂参道の狛犬
令和4年12月撮影



前山庚申堂
令和4年12月撮影



土肥家庚申堂
令和4年12月撮影



土肥家庚申石棒
令和4年12月撮影



土肥家庚申石棒
平成6年秋撮影